

その自然には物語がある

# 日本の自然と国立公園

人と自然が共生する日本は、生物多様性に富んだ国である

日本と同じくらいの面積で、緯度が似た島国として、イギリス、ニュージーランドと比較しています。

国土面積



日本  
378,000 km<sup>2</sup>  
東京の緯度 北緯35度40分

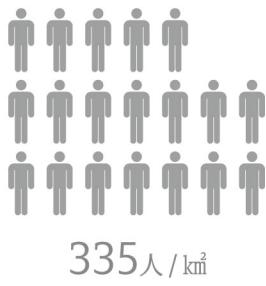


イギリス  
243,000 km<sup>2</sup>  
ロンドンの緯度 北緯51度30分



ニュージーランド  
268,000 km<sup>2</sup>  
ウェリントンの緯度 南緯42度41分

人口密度



335人 / km<sup>2</sup>



271人 / km<sup>2</sup>

18人 / km<sup>2</sup>

哺乳類の種数



固有種数  
48種

総種数  
107種



固有種数  
0種

総種数  
42種



固有種数  
3種

総種数  
3種

鳥類の種数



固有種数  
10種

総種数  
542種



固有種数  
1種

総種数  
542種



固有種数  
56種

総種数  
295種

植物の種数



固有種数  
1,800種

総種数  
5,300種  
※概数



固有種数  
160種

総種数  
1,623種



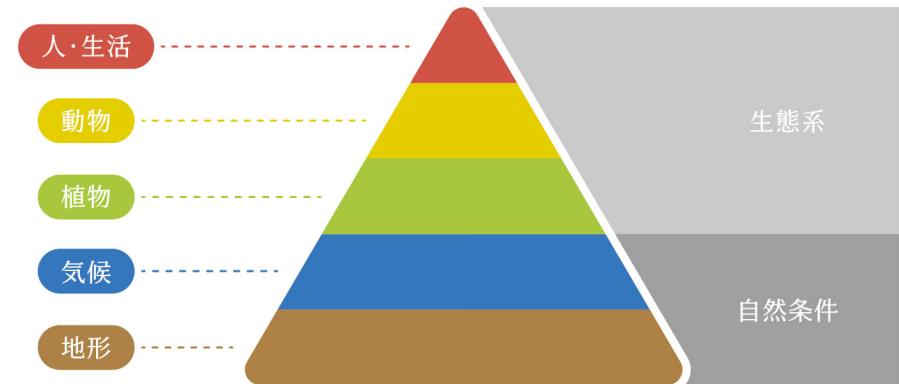
固有種数  
1,654種

総種数  
2,089種

出展: 帝国書院 統計資料 世界 面積・人口(面積・人口密度[2017年]) / 国立科学博物館(日本館常設展[日本列島の素顔])

日本の国立公園は、大自然に支えられた生活・文化に出会える場所

日本では、変化に富む地形と、幅広い気候帯を背景に、その環境に適応した多様な動植物が生育・生息し、人々の生活・文化を支えてきた。国立公園では、その「つながり」が生み出した一級の大自然と特有の文化を体感できる。



自然の恵みと  
脅威が、  
信仰を育んだ



災害 地形や気象に恐れを感じ  
畏敬の念を抱いた



恵み 豊かな大地と水が育む  
動物や植物に対し  
感謝の念を抱いた

亜寒帯から亜熱帯までの  
気候帯に支えられた  
多様な環境

亜寒帯  
冷温帯  
暖温帯  
亜熱帯



亜寒帯の  
流氷の海

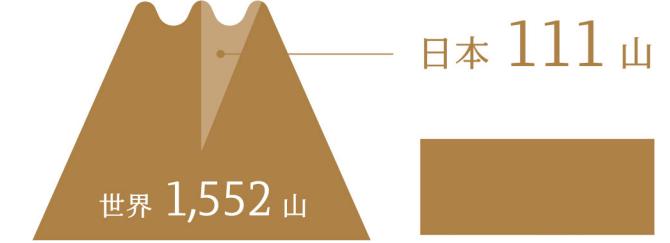
四季の変化に富む  
温帯の森

亜熱帯の  
サンゴ礁の海

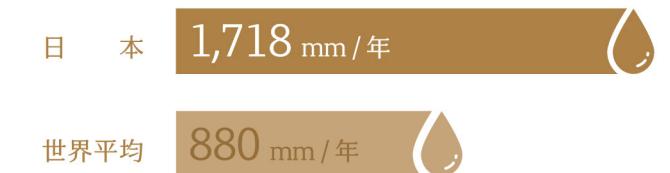
出展: 大日本山林会  
「日本の森林と林業 森林学習のための教本」

日本は、火と水の国である

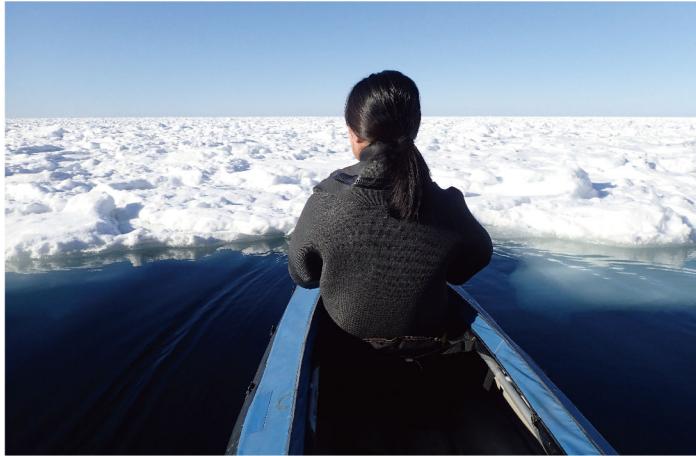
火山の数



降水量



出展: 気象庁 日本活火山総覧(第4版) / 年間降水量(国土交通省)



右：大山隠岐国立公園、大山とサクラ

左（右上から時計回りに）：

知床国立公園、流氷カヤック

慶良間諸島国立公園、ダイビング

大山隠岐国立公園、オオサンショウウオ

十和田八幡平国立公園、朝焼けの鳶沼と紅葉

National  
Parks  
of Japan



# その自然には物語がある Stories to Experience

-National Parks of Japan-

日本の国土には多様な自然環境が凝縮されています。また、国土が南北に長いため、一つの国の中に亜寒帯から亜熱帯まで、多様な気候帯が存在します。もっとも広い範囲を占める温帯の地域には、はつきりとした四季が訪れ、季節ごとに自然が様々な変化を見せます。こうした環境に適応する形で、動植物や人々の生活・文化も豊かな多様性を持ちました。日本の国立公園は、自然環境のつながりが生みだした大自然と、その地方特有の文化を体感できる場所なのです。

## 亞寒帶から亜熱帯までの 気候帯に支えられた多様な環境

日本はユーラシア大陸の東に位置し、国土（陸域）の面積は38万km<sup>2</sup>ですが、南北に3千kmに渡って長く弓なりに伸びていて、亜寒帯から、冷温帯、暖温帯、亜熱帯まで、幅広い気候帯を含みます。そのため同じ冬の季節でも、亜寒帯の北海道沖には流水で覆われる海域がある一方で、亜熱帯の南西諸島の海域にはサンゴ礁が広がるなど、自然環境や動植物に豊かな多様性が見られるのです。この環境をうまく活用すれば、冬の知床で午前中に流水クルーズや流水ウォークを楽しんだ後に、飛行機で沖縄に飛んで、その日のうちにダイビングを満喫するなんてことも不可能ではありません。これは日本でしかできないことです。

日本でもっとも広範囲に渡る温帯域（冷温帯・暖温帯）には、はつきりとした四季が訪れ、春の桜や秋の紅葉など、季節ごとの自然の変化を楽しめます。これは季節によって、季節風（モンスーン）が変化し、気候に影響を与えるからです。

夏は南の海からの風を受けて高温多湿となり、冬は北西の大陸からの風を受けて乾燥した寒い季節になります。夏の前には梅雨、夏から秋にかけては台風や秋の長雨があり、さらに冬は日本海の水分を含んだ北風が日本海側で雪を降らせます。

## 日本は生物多様性に富んだ国

わずか38万km<sup>2</sup>の日本の国土の中に、約5千種の植物、約100種の哺乳類と約550種の鳥類が生息しています。例えば、同じような国土面積のイギリスやニュージーランドと比べると、日本の方が種数が多いのです。さらに日本は固有種の割合が高く、小型哺乳類、両生類および爬虫類の多くと、植物の約3分の1が固有種と考えられています。全長148cm、体重30kgという記録を持つ、世界最大級の両生類オオサンショウウオも日本固有種です。3千万年前の化石と、今の姿がほとんど変わっていない「生きる化石」のような生き物も、日本には生息しています。

このように日本が生物多様性に富んだ国となつた原因は、やはり日本が幅広い気候帯を持つこと、そして降雨・降雪量が豊富なためでしょう。また海面上昇と低下による大陸とのつながりと隔離が繰り返されたことも影響していると考えられます。

## 日本は、火と水の国である

プレートの境界上に位置する日本列島には、活火山が多数あります。本州の中央を境に北東部と南西部に2つの火山帯が走り、111の活火山が連なっているのです。世界における日本の国土面積が0・25%なのに対し、火山の割合は7%と非常に多く、日本は「火の国」であるとも言えます。

火山は隆起や噴火により、様々な地形を生み出すほか、大量の噴出物を地表にもたらし、平原な大地を形成します。また火山灰は、風化すると農作物の生産には欠かせない土壌の基になります。隙間の多い火山体内部は、多くの水を浸透させ、伏流水の層を形成するため、山麓では湧水や地下水を利用できます。また、地熱で暖められ、火山由来のさまざまな成分を含む水や、温泉も楽しめます。これらは火（火山の噴火）による恵みの一例です。

日本の年間平均降水量は、世界平均の約2倍。さらに飲み水としても優れており、非常に水に恵まれた国だとと言えます。

山に降った雨は、山の栄養を吸収した湧き水となり、川を通じて海へと注ぎます。海水が蒸発して雲になり、また雨となつて降り注ぐ、そんな豊かな水環境と適度な気温が農業に適しているため、日本では米作りが盛んになりました。さらにそこから米文化、酒づくりなどが生まれ、日本人の生活の根幹を支えています。まさに日本は「水」に豊かさを育まれた「水の国」なのです。

積雪量も世界有数です。世界の豪雪都市トップ10に日本の都市が複数入るうえ、青森市の、年間降雪量は7mを超える世界一。「ジャパウ（Japow）」と呼ばれる雪質で、世界中のウインターポーツ愛好家を魅了しています。

## 自然の恵みと脅威が 信仰を育んだ

一方で、火や水は災害を生み出すこともあります。台風、火山の噴火、地震や津波、河川の氾濫、土砂崩れなど、人命や財産を奪う災害をも生み出し、大きな被害をもたらしてきました。こうした自然の脅威に対し、日本人はその土地にあつた知恵や工夫をこらし、その土地で自然の恵みを得ながら生きしていくことを選びました。その結果、土地ごとに独自の風習、文化・信仰が生まれました。

## 自然の恵みと里山里海

里山は、水田、小川、草原など、人々が暮らし、集い、草花や鳥、昆虫など、さまざまな生き物たちが、あたりまえにそばにいる空間です。日本で両生類の種数が多い理由は、水辺環境が豊富だったためで、水辺環境が豊富だったためで、水田もそのひとつと考えられます。

里海は、古くから水産・流通をはじめ、文化と交流を支えてきた、水産資源の生産性と生物多様性が豊かな沿岸海域です。

右：伊勢志摩国立公園、海女の漁  
左：霧島錦江湾国立公園 寺山公園から桜島と錦江湾





## 日本の国立公園 ストーリー集

このストーリー集は、日本の自然やその代表である国立公園、さらに、各国立公園ならではの魅力や価値を、全国の国立公園にかかる人たちで考え、共有し、伝えていくために作成しました。国立公園を訪れる方が、そのストーリーを体験・体感できるよう、国立公園のレンジャーだけではなく、地域の方々や関係する事業者の方々と協働取り組みを進めていきたいと考えています。

そのためには、ここで表現されている価値や魅力を、実際に国立公園を訪れる方に提供する商品やサービス、情報、空間づくりに反映させ、さらに質を向上させていくことが大切です。そのためにはこのストーリー集を各公園の関係者で共有し、実際にはどのように活用できるのかを考え、実践し、訪れた方の反応なども踏まえて関係者でよりよいものにブラッシュアップしていく——こうした過程を繰り返していくことで、日本の国立公園の価値や魅力が、世界中から認識されるとともに、それぞれの地域に息づく自然と共にあります。暮らしが受け継がれ、活力ある地域の実現につながっていくと考えています。

国立公園のレンジャーや地域の関係者の方々と共に、このストーリー集をご活用いただければ幸いです。

国立公園を見れば日本がわかる。  
人と自然の共生のヒントがある。

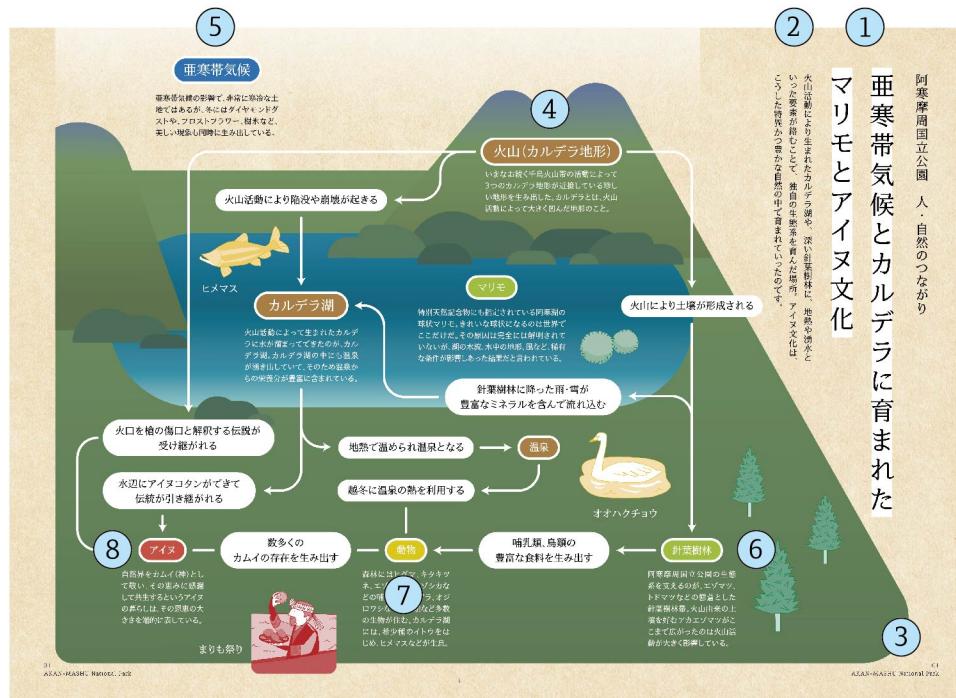


日本の国立公園は、自然と人の  
営みが共存している場所

なぜなら日本の国立公園は、傑出した自然景観はもちろんのこと、公園内にも人々が暮らしているため、地域ごとに脈々と受け継がれて来た自然とのつきあいの方があり、独自の文化や信仰が息づいているからです。厳しい自然と共に苦労しながら、長い時間をかけて築き上げてきた暮らしのものも、日本の国立公園の重要な資源なのです。

日本の国立公園は、訪れる人ひとりひとりに垣間見せ、感じさせてくれることでしょう。価値観がまぎるしく変容する世界の中で、しなやかに、優しく、けれどしたたかに生き続けていくためのヒントを。

## ストーリー集の見方



つながりページ

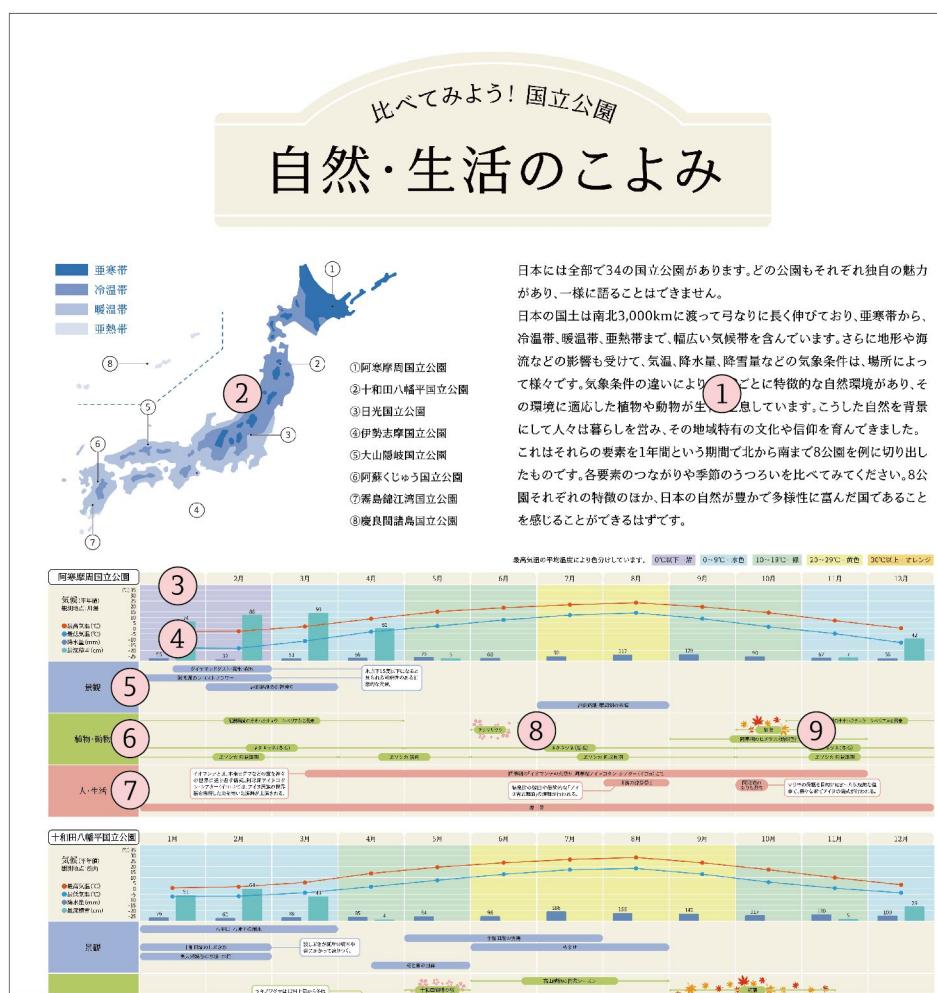
## 各国立公園の自然要素と人々の生活・文化との代表的なつながりを簡略な模式図で表したページ

- ① つながりを表す見出し
  - ② つながりの解説文
  - ③ つながりを表した模式図
  - ④ 地形に関する要素(茶色)
  - ⑤ 気候に関する要素(青色)
  - ⑥ 植物に関する要素(緑色)
  - ⑦ 動物に関する要素(黄色)
  - ⑧ 人の生活や文化に関する要素(赤色)



全体ストーリーページ

## 基礎情報や各国立公園全体に関わる情報をまとめたページ



比べてみよう！国立公園  
自然・生活のこよみ

8つの国立公園を例に、日本の自然変化やそれに伴った祭事などをカレンダー形式でまとめたページ

- ① 本ページの主旨
  - ② 8公園の分布図
  - ③ 最高気温と最低気温の月ごとの平年値を示したグラフ
  - ④ 降水量と最深積雪の月ごとの平年値を示したグラフ
  - ⑤ 自然景観の変化
  - ⑥ 動物や植物に関する自然の変化
  - ⑦ 人の生活や文化に関する情報
  - ⑧ サクラの開花時期
  - ⑨ 紅葉の時期



アイコンの役割

各公園の全体メッセージ、個別ストーリーに含まれる要素を表すものです。

- |                                                                                           |                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
|  火   | …… 火山に関する要素                      |
|  水   | …… 河川、湖沼、海など、水に関する要素             |
|  大地  | …… 地面の隆起、氷瀑・全面結氷など地表で起きる現象に関する要素 |
|  気候  | …… 降水量、降雪量、気温、海水温など気候や気象に関する要素   |
|  生き物 | …… 動物、植物などの生き物に関する要素             |
|  生活  | …… 農林水産業、地場産業、郷土のならわしなどに関する要素    |
|  食   | …… 郷土料理、旬の食材の加工・活用、仕込みなどに関する要素   |
|  文化  | …… 伝統芸能、伝統工芸、祭事などに関する要素          |
|  信仰  | …… 祭り、寺社仏閣に関する要素                 |
|  楽しみ | …… 体験、アクティビティなどに関する要素            |

## AKAN-MASHU National Park

指定:昭和9年12月4日 面積:91,413ha 北海道

## 噴煙を上げる雌阿寒岳

アイヌ語では「マチネシリ(雌山)」と呼ぶ。主峰のポンマチネシリの標高は1,499m。奥に見えるのは阿寒富士。標高1,476m。

阿寒湖は美しい球形のマリモの世界で唯一の群生地である。また、阿寒湖原産であるヒメマスは、ベニザケの一種で、もともとは海と川を行き来していたものが、火山の噴火により湖に閉じ込められて淡水魚になったという。

この地では、アイヌの文化も大切に残されており、「阿寒湖アイヌコタン」や「屈斜路コタン」では、自然と寄り添つて生きてきたアイヌの生活や文化に触れることもできる。

ここは、日本でも最も原生的な自然が残る場所の1つである。晚秋には屈斜路湖に、シベリアからオオハクチョウが飛来する。湖底から湧く温泉のお陰で湖の一部が結氷を免れるため、冬の間、ここで栄養を補給したり、羽を休めたりするのだ。

寒摩周国立公園には屈斜路、摩周、阿寒という3つのカルデラと、それぞれに特徴的な湖が存在する。火山活動によって形成された多様な地形や地熱の恩恵を受けた特殊な生物相が狭い範囲に集中している様は世界に誇れるものだ。

AKAN-MASHU

## 阿寒摩周国立公園

3つのカルデラと湖、

そして原生自然から感じるカムイの存在





#### クマゲラ

日本最大のキツツキ。クマゲラが木にあける穴の形からアイヌの人々が舟の製作を思いついたと言われ、アイヌ語では「チアタッヂカアカムイ(舟を彫る鳥の神)」と呼ばぶ。

#### エゾシカ

ニホンジカの仲間の中で最大。アイヌ語では「ユク」と呼び、意味は獲物。アイヌの人々によく食べられていた。

#### まりも祭り

毎年10月上旬に阿寒湖で行われる、マリモの保護の推進を目的とした行事。湖上に丸木舟を浮かべ、アイヌ流の儀式が行われる。

#### 摩周岳と摩周湖

摩周岳はアイヌ語で「カムイヌブリ(神の山)」。世界屈指の透明度を持つ摩周湖は「カムイトー(神の湖)」と呼ばれる。

#### 阿寒湖

阿寒カルデラの中央に位置する。特別天然記念物の「阿寒湖のマリモ」の生育地や、ヒメマスの原産地として知られる。

#### アトサヌプリ(硫黄山)

かつては硫黄の採掘が行われていた。噴気孔の数が大小合わせて1,500以上あり、常時、白い噴気を上げている。アトサヌプリはアイヌ語で「裸の山」の意味。

#### 屈斜路湖

日本最大のカルデラ湖。湖水の面積は約80km<sup>2</sup>。冬には湖水が凍結し、割れた氷がせりあがる「御神渡り現象」が起こる。

#### 摩周湖の雲海

太平洋、釧路沖で発生した海霧が、南風に乗って内陸へと運ばれ摩周湖まで流れ込んでくることで発生する。

## アイヌの自然観・カムイの存在



## 今なお活動する地球のエネルギーを感じる3つのカルデラと湖



### 狩

猟採集を行ってきたアイヌに

とって、自然とは恵みを与えてくれる存在であり、同時にままならない存在でもあった。

そうしたアイヌの信仰の形は、当然、自然に寄り添つたものとなつた。山も川も火も風も自然界の多くのものは、カムイ(神)やその化身であり、時には動物という形で現れて、貴重な食料にもなってくれる。

その存在に最大限の敬意を払うことで、大いなる自然と調和を図つて暮らしてきたのだ。

国立公園の西側にある「阿寒湖アイヌコタン」では、そのようなアイヌの文化に触れることができる。伝統的な舞踊や衣服、紋様、そして生活様式。そのいずれもが、自然に対する畏敬の念に溢れている。屈斜路湖の南岸の屈斜路コタンには、アイヌの民俗資料館もある。

自然に寄り添つたアイヌの価値觀を体感できるこの地は、自然の貴重さ、尊さから隔絶されがちな現代人にとって、学びの多い特別な場所である。

もう一度、1つの生き物に立ち返つて、自分を取り巻く世界に目を向ける。じつと静かに、人間という存在を自然の一部として見つめ直す。そんな静的体験ができるのも、阿寒摩周国立公園の魅力の1つだ。

### 3

つのカルデラと湖を中心とした壮大な景色を生み出した原因を

知ろうとしたら、数十万年前まで遡る必要がある。はるか昔に起きた火山活動によってできた崖みど、長い年月をかけて、そこに水が溜まった結果だ。

# アカシカとカルデラに育まれた マリモとアイヌ文化

火山活動により生まれたカルデラ湖や、深い針葉樹林に、地熱や湧水と  
いった要素が絡ることで、独自の生態系を育んだ場所。アイヌ文化は、  
こうした特異かつ豊かな自然の中で育まっていたのです。

## アカシカ

アカシカの影響で、非常に寒冷な土  
地ではあるが、冬にはダイヤモンドダ  
ストや、フロストフラワー、樹氷など、  
美しい現象も同時に生み出している。

## 火山(カルデラ地形)

いまなお続く千島火山帯の活動によって  
3つのカルデラ地形が近接している珍し  
い地形を生み出した。カルデラとは、火山  
活動によって大きく凹んだ地形のこと。

火山活動により陥没や崩壊が起きる



## カルデラ湖

火山活動によって生まれたカルデ  
ラに水が溜まってできたのが、カル  
デラ湖。カルデラ湖の中にも温泉  
が湧き出していて、そのため温泉か  
らの栄養分が豊富に含まれている。

火口を槍の傷口と解釈する伝説が  
受け継がれる

水辺にアイヌコタンができる  
伝統が引き継がれる

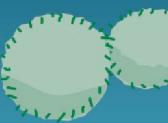
## アイヌ

自然界をカムイ(神)とし  
て敬い、その恵みに感謝  
して共生するというアイヌ  
の暮らしは、その恩恵の大  
きさを端的に表している。

## まりも祭り

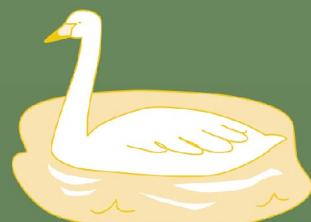
## マリモ

特別天然記念物にも指定されている阿寒湖の  
球状マリモ。きれいな球状になるのは世界で  
ここだけだ。その原因は完全には解明されて  
いないが、湖の水流、水中の地形、風など、稀有  
な条件が影響しあった結果だと言われている。



火山により土壌が形成される

針葉樹林に降った雨・雪が  
豊富なミネラルを含んで流れ込む



## 温泉

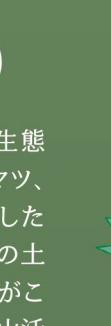
地熱で温められ温泉となる

越冬に温泉の熱を利用する

哺乳類、鳥類の  
豊富な食料を生み出す

## 動物

森林にはヒグマ、キタキツ  
ネ、エゾタヌキ、エゾシカな  
どの哺乳類。クマゲラ、オジ  
ロワシなどの鳥類など多数  
の生物が住む。カルデラ湖  
には、希少種のイトウを  
はじめ、ヒメマスなどが生息。



阿寒摩周国立公園の生態  
系を支えるのが、エゾマツ、  
トドマツなどの鬱蒼とした  
針葉樹林帯。火山由来の土  
壌を好むアカエゾマツがこ  
こまで広がったのは火山活  
動が大きく影響している。



02

## TOWADA-HACHIMANTAI National Park

指定:昭和11年2月1日 面積:85,534ha 青森県、秋田県、岩手県

### ブナ

十和田八幡平国立公園の森の主役ともいえる存在。公園全域のおよそ標高1,000m以下の地帯で優勢となる。5~6月には新緑に覆われ、10月頃には黄葉し、一帯を黄色く輝かせる。

02  
TOWADA-HACHIMANTAI National Park

— 頭のツキノワグマが森をゆっく  
りと歩いている。後ろの茂みから鞠のように飛び出してきたのは、そ  
の子供たちだ。時折クマたちは足を止  
めてなにかを探すようなそぶりを見せ  
る。ブナの実だ。

こんな想像が容易にできてしまうほど、十和田八幡平国立公園には、ブナに代表される冷温帶落葉広葉樹林（ブナ帯）の豊かな森がある。これだけの自然林が残っているのは、日本のみならず、世界的にも珍しい。

ブナが色づき始め、クマたちが長いまどろみに入る準備をしている頃、あちこちから立ち昇る湯気を目指して、今度は人間たちがやってきた。目指すは温泉だ。国立公園内だけでも多数の温泉があり、大勢の人が訪れる。古くから続く湯治文化が根付いているのだ。

ここを訪れると、自然の音を邪魔しないよう、ちょっと小声で話したくなれる。大自然の中に“お邪魔している”感覚になるのだ。

TOWADA-HACHIMANTAI

# 十和田八幡平国立公園

ブナ帯における奥山と人の関わり



02  
TOWADA-HACHIMANTAI National Park



玉川温泉

地元のマタギにより1680年代後期に発見された。1929年、湯治により持病の皮膚病を治した関直右衛門により本格的な開発が進んだ。



酸ヶ湯温泉

約300年前から開かれていた山の温泉宿。八甲田山西麓、標高約900mの高地にあり夏でも涼しい反面、冬は雪で覆われ、積雪は5mに達することもある。



八幡平山頂

複数の火山により形成された火山性高原。山頂は真夏でも15度と涼しく、八幡平最大の湖沼、八幡沼の周辺には遊歩道や展望台が整備されている。



モリアオガエル

本州と佐渡島に生息する森林性のカエル。6~7月頃に水辺に突き出した樹木の枝などに白い泡状の卵塊を産み付ける。ブナ林などの水辺に生息する。

## 東北の湯治文化



東  
北には、300年以上続く湯治文化がある。もともとは山をなりわいの場としていたマタギなどによって発見され、藩主などの高い地位の人たちが病気療養のために訪れていた場所もあった。しかし、近代になって一般庶民にも普及し、現在ではさまざまな人々が世界中から上質な湯を求めて東北の山間部を訪れる。

正月湯治、寒の湯、春湯治、田植え前の湯、泥落としの湯など、農閑期をうまく利用した湯治文化は、苛酷な農作業の疲れを癒すとともに、仕事への活力の源でもあった。こうして湯治文化はかつて日本全国にあつたが、いまなお色濃くその風習が残っているのが、十和田八幡平国立公園だ。

湯治宿は、一般的な温泉旅館とはやや異なる。療養のための長期滞在が目的なので、簡単な宿泊施設と自炊施設、自炊のための食品を売る売店などがあるだけだった。旅館としての機能が湯治宿に備わった今でも、美しい山々の景色を眺めながら湯に浸かり、「なにもしない」をする。忙しい日常から解放された、特別な時間が湯治場には流れている。

この、「暮らすように滞在する」湯治というスタイルは、点から点へと移動することが多い現在の旅行者には逆に新鮮に映る。実際、湯治文化に触れようとやってくる人は増え続けおり、滞在を通じて心身をリフレッシュさせる新・湯治の時代が幕を開ける日は近づいた。



乳頭温泉郷

十和田八幡平国立公園、乳頭山麓に点在する七湯が「乳頭温泉郷」と呼ばれる。写真は最も古い歴史を持ち、かつては秋田佐竹氏の湯治場だった鶴の湯。



蒸ノ湯

八幡平アスピーテラインから奥に入った標高1,100mの高所にある一軒宿。名物となっている屋根もない野天風呂が蒸気が立ち上る大地に点在する。



八甲田連峰の樹氷

八甲田連峰の山頂付近に広がるオオシラビソ林は、冬季には雪などが樹木に付着、凍結した樹氷が形成され、幻想的な光景を生み出す。



ニホンカモシカ

シカの仲間ではなくウシの仲間のため、ツノは抜け落ちない。公園内の樹林帶に生息する。種として国の特別天然記念物に指定されている。

## 動植物と人が共存する豊かな森



十和田八幡平地域には、十和田湖、奥入瀬渓流、八甲田連峰などがあり、岩手山、八幡平、秋田駒ヶ岳などからなる八幡平地域には、火山現象と冷温によって生まれた湖沼と高層湿原がある。そんな多様性のある環境の中で、動物たちも豊かに暮らす。

森の中には、ツキノワグマやニホンカモシカ、テンヤムササビといった哺乳類をはじめ、モリアオガエルやクロサンショウウオなどの両生類、クマタカなどの貴重な鳥類もある。

山深いエリアであったため、奥山の自然林は人の侵入を許さず、大規模な開発などが行われることもなかった。その周辺は明治～昭和前期を中心に薪炭林として伐採されたこともあったが、現在では、自然に回復し、ブナは人の手があり入っていないこのエリアの自然の豊かさを求め、夏はハイキング、冬はスノーシュー、また、水辺ではカヌーなど、インパクトを与えない形でブナの森を楽しむ人も増え始めている。深い森のざわめきに、注意深く意識を向ければ、多種多様な生き物の気配が充ち満ちていることに気付くはずだ。

十和田八幡平国立公園では、動植物が主役だ。世界でも有数の群落を形成するブナを中心に、ミズナラやカツラなどの落葉広葉樹、そして多雪環境に適応したオオシラビソ林など、多様な森林環境がある。さらに八甲田連峰、岩手山や秋田駒ヶ岳の山頂付近では森林限界を越え、高山植物が可憐な花を咲かせる荒涼とした山稜となる。

# 火山と多雪の環境が湖の美しい景観とブナ帯を育んだ

多様な火山地形と深い雪が、人の入りにくい奥山を形成しているため、豊かな森林が保存されているエリアです。美しい森と水は動物たちの糧となり、豊富に湧き出る温泉は、人々を癒す場所となりました。

## 冷温帯

冷温帯とは、温帶の中でも亜寒帯に近い地域を指す。十和田八幡平エリアは、多雪でもあるため、雪解け水が豊富な伏流水となり、世界でも屈指のブナ林が維持された。



### 湯治文化

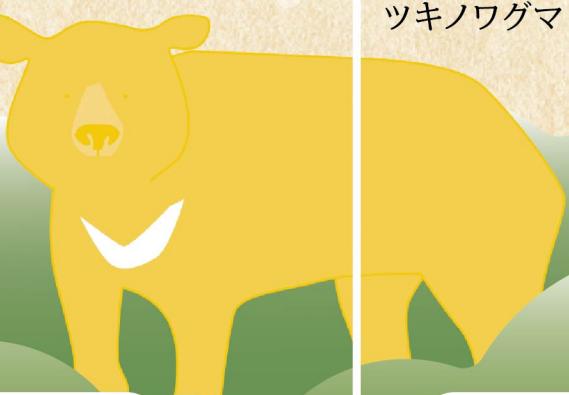
温泉が多いこの地域では湯治文化が古くから盛んだ。かつては農閑期に体を癒すために主に地元の人に利用されたが、現在では旅の一形態として様々な地域から人が訪れている。



### 動物

豊富な食糧があるブナ林には、ブナの実を好んで食べるツキノワグマなどの大型哺乳類が暮らす。また雪解けによる美しい渓流が数多くあり、モリアオガエルなど希少な両生類も生息している。

### ツキノワグマ



### 多様な温泉の利用方法が生まれる

### 温泉

### 地熱で温められ温泉となる

### 火山

### 火山地形

現在も活発な火山が多く存在し、それによってカルデラ湖、八甲田連峰、火山性高原の八幡平など、多様な火山地形や湖沼が形成された。また火山の地熱現象によって数多くの温泉が存在する。

### 火山活動がカルデラ湖を形成する

### 十和田湖

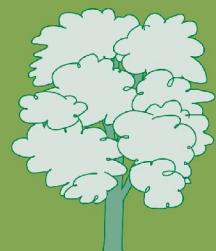
### 豊富な食料を供給する

最大深度327mと、日本で第3位の深さを誇るカルデラ湖。明治時代に和井内貞行という人物によってヒメマスの養殖が始まり、現在ではヒメマス料理が郷土料理として定着。

### 十和田湖

公園内の標高200~1000m付近にはブナを中心とする広大な落葉広葉樹林が広がり、動物たちにとっての貴重な食糧源となるほか、美しい紅葉が多くの観光客の目を楽しませている。

### 八幡平



↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

## NIKKO National Park

指定:昭和9年12月4日 面積:114,908ha 福島県、栃木県、群馬県

## 華厳の滝

男体山の噴火によって堰き止められた中禅寺湖の水が、高さ97mの岩壁を一気に落下する。観瀑台からは、爆音とともに水しぶきが弾ける豪快な姿が見られる。

これらの山麓に広がる高原の中に、火山活動によって誕生した湖沼や瀑布、渓谷が展開し、四季折々の景観美を織り成している。その一方、日光東照宮を中心とする世界遺産に登録された神社仏閣群と、数々の歴史的建造物も大きな見所の1つだ。

日本歴史を今に伝える莊厳な文化遺産と、多彩な自然美が渾然一体となつて迎えてくれる日光国立公園。東京からのアクセスも容易であり、国内のみならず海外からの旅行者にも、手軽に訪れて「日本の魅力」にふれることができ、観光地として、不動の人気を誇っている。

## 日光国立公園

日本の歴史と自然が凝縮された箱庭



## 時空を超えて愛される地



明治時代から昭和初期には、日本駐在の外交官らの避暑地としてにぎわった。冷涼な気候を求めて、中禅寺湖畔に各國大使と外交官がこぞって別荘を建設。「夏の日光は外務省のロビーのようだった」と言われるほど、多くの外国人が避暑に訪れたのは、現在のインバウンドのさきがけと言える。「イタリア大使館別荘記念公園」や「イタリア大使館別荘記念公園」はその名残。エキゾチックな旧別荘の建物を見学し、往時の面影をしのぶことができる。

夏目漱石や谷崎潤一郎など数々の文人墨客が訪れ、全国に知られることとなつた塩原温泉や、かつて那須の御用邸の一部だつた森が国民に解放された「那須平成の森」なども広く親しまれている。



イタリア大使館別荘記念公園(本邸)

昭和3年(1928年)にイタリア大使館の別荘として建てられ、平成9年(1997年)まで歴代の大天使が使用。建築家で外交官でもあるアントニン・レーモンドの設計。

塩原温泉「湯つ歩の里」

体験型の温浴施設で全長60mもある日本最大級の足湯を楽しめる。夏目漱石、長塚節、室生犀星の文学碑、歌碑が庭園に設置されている。



男体山登拝大祭

今から1,200年以上前の奈良時代末より連綿と続く、男体山信仰に根ざしたお祭り。8月1日前半零時から数千人の参加者が山頂の御来光を目指し夜間登山を行う。

那須平成の森

那須御用邸用地の一部だった、約560haを一般に解放した皇室ゆかりの森。自由散策とガイドウォークの2つの体験ができる。

## 初心者に優しいアクセス容易な「日本の自然凝縮地」



公  
園区域の中核である栃木県日光市へは、東京から車や鉄道により最短約2時間でアクセスが可能だ。そこから少し足を延ばすだけで、森、湖沼、滝、湿原、火山など、多彩な自然の景観を楽しむことができる。東京から数時間で日本第一級の自然を楽しめる気軽さこそ、日光を日本屈指の観光地たらしめている。

男体山から噴出した溶岩流に堰き止められてできた中禅寺湖と、その流出口に落水する華厳滝。そして、つづら折りのカーブが続くいろは坂は、全国でも名高い紅葉の名所。秋には山頂から山麓へと時期をずらして紅葉が進む。ほかにも鬼怒川、塩原渓谷、那須岳など、紅葉狩りでにぎわうスポットを紹介すれば、枚挙にいとまがない。錦秋の季節が過ぎ、一面が銀世界に包まれる冬景色のなか楽しむスノーシューや氷瀑も風情たっぷりだ。

新緑や花々に彩られる季節も見応えがある。初夏に約20万株のレンゲツツジが群生する八方ヶ原、ニッコウキスゲやコバケイソウなどの高山植物が楽しめる沼原湿原など、公園区域に花の名所が多い。いずれも遊歩道が整備されており、気軽にハイキングを楽しめる。さらには、釣りやSUP、ガイドツアーなどアクティビティも充実している。

多彩な自然環境を有し、春夏秋冬めぐるめく景観美を体感できる日光は、いわば「美しい日本の自然」が凝縮された地。そう言つても過言ではない。

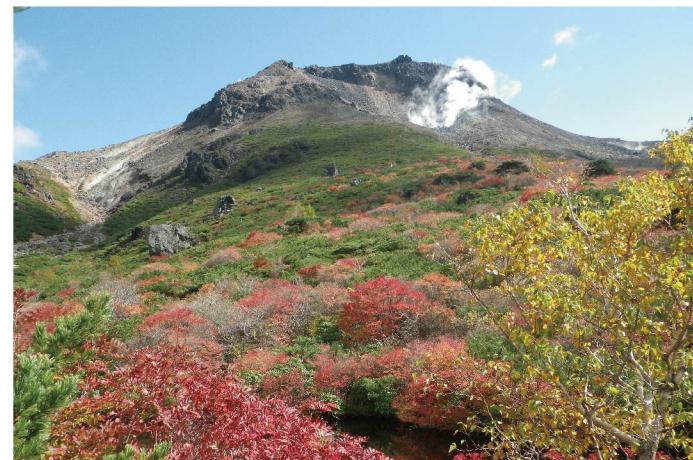


鬼怒川

ライン下りやラフティングなど、老若男女の誰もが渓谷美を満喫できる。関東有数の温泉地としても有名。

雲竜渓谷氷瀑

日光市の雲竜渓谷に、大きく5段になって落ちる滝で100mを超える落差を誇る。水量が少ないと冬には全面凍結する氷瀑となる。



茶臼岳

現在も噴気を上げる標高1,915mの成層火山。ロープウェイで9合目までがる事ができ、山頂からは壮大な景色が広がる。

湯ノ湖

戦場ヶ原を流れる湯川と湯ノ湖は、フライフィッシングの聖地として釣り人憧れの地。湯ノ湖には釣り用の貸し船もあり、ルアー釣りや餌釣りも楽しめる。

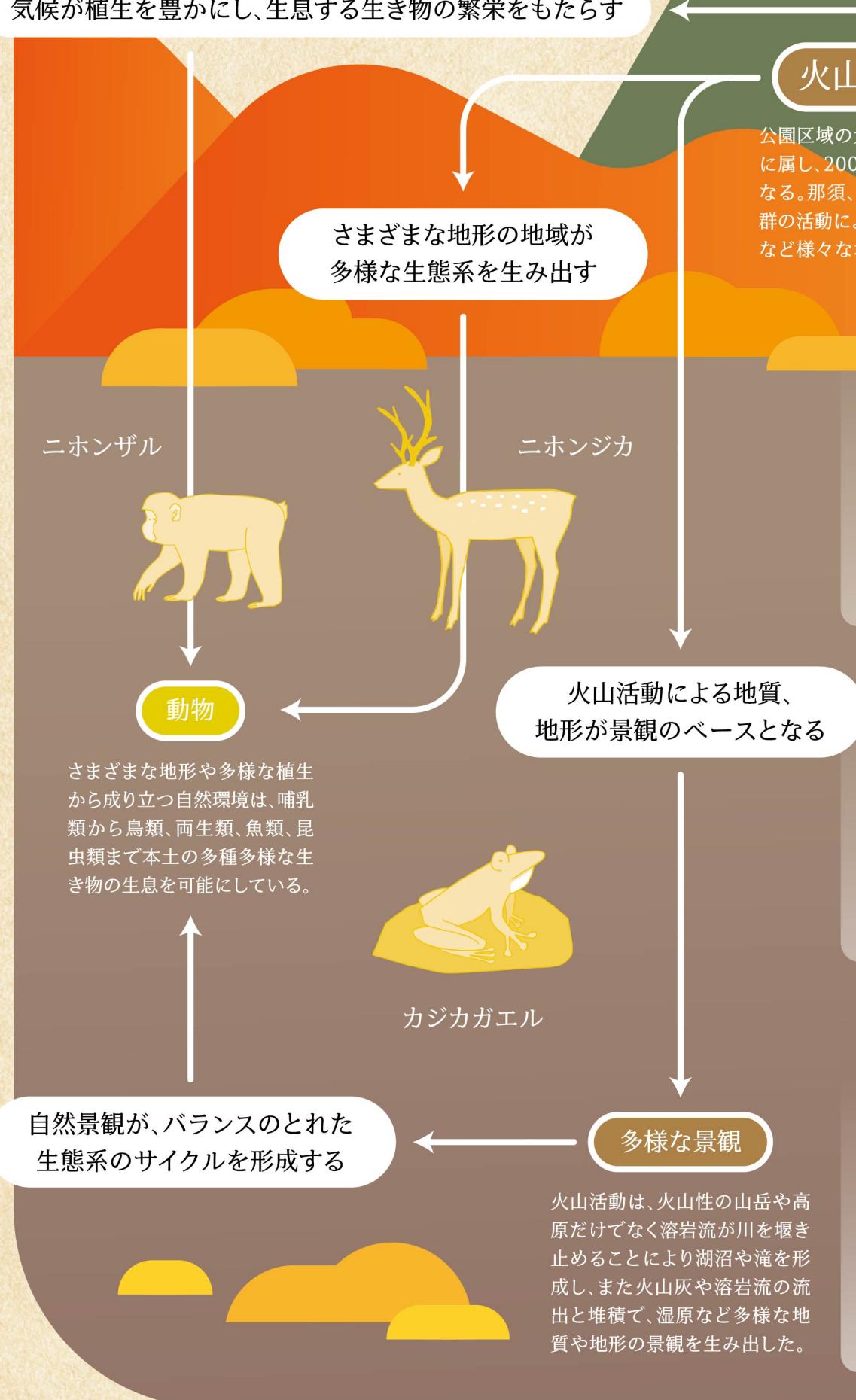
# 冷温帯気候と火山地形が、 みごとな四季景観と

**日本文化遺産を生み出した**

日光国立公園の景観は、那須火山帯の火山活動によって生まれました。標高差が大きく複雑な地形が形成され、冷涼で多雨、寒暖差が大きいという気候条件が加わり、多種多様な環境と生き物の命を育んできたのです。

## 冷温帯気候

一年を通して比較的冷涼で降雨量も多く、季節や朝晩の寒暖差が大きい。夏は多雨、冬は寒さが厳しく少雨だが降雪も見られる。



起伏の多い地形に気候が影響して景観を生み出す

## 四季の景観の変化

標高差と変化に富んだ地形により、落葉広葉樹林から針葉樹林、高山植物や湿地植物の群落など、多種多様な植生に恵まれる。さらに太平洋側と日本海側の気候の境目にあたり、ふたつの気候に沿った植生が、四季を通して豊かな景観をつくり出す。



日光東照宮

徳川家康がまつられた理由には諸説あるが、日光は古くから山岳信仰の聖地として知られていた。また、火山活動由来の加工しやすい安山岩を産出し、東照宮造営でも多くの石造物がつくられた。

## ISE-SHIMA National Park

指定:昭和21年11月20日 面積:55,544ha 三重県

## 英虞湾

隆起した大地の、川や谷だったところに海面が上昇した際に海水が入り込んだため、リアス海岸と呼ばれる岬や入り江の多い複雑な地形となった。

**里山・里海**  
里山・里海の自然と伊勢神宮の歴史と文化、地域の暮らしと伊勢志摩の自然。それらはどのようにかかわり合っているのか? そこに着眼することで、伊勢志摩国立公園の奥深い魅力がくっきりと浮かび上がってくる。

**内陸部**  
内陸部は「里山」を内包し、海沿いには「里海」が広がっている。いずれも農業、林業、漁業など、人の営みと密接に関わりながら、その生態系が維持されてきた場所だ。そして、人と自然の共生共栄が伊勢志摩で定着した背景の1つに、この地に鎮座し、悠久の歴史を刻み続ける伊勢神宮の存在がある。

**二 三**  
重県の中央部に位置する志摩半島に広がる伊勢志摩国立公園は2つのエリアに大別される。1つは、伊勢神宮との背後に広がる豊かな森林環境を有する内陸部のエリア。もう1つは、複雑に入り組んだリアス海岸と多島景観が展開する海沿いのエリアである。

## 伊勢志摩国立公園

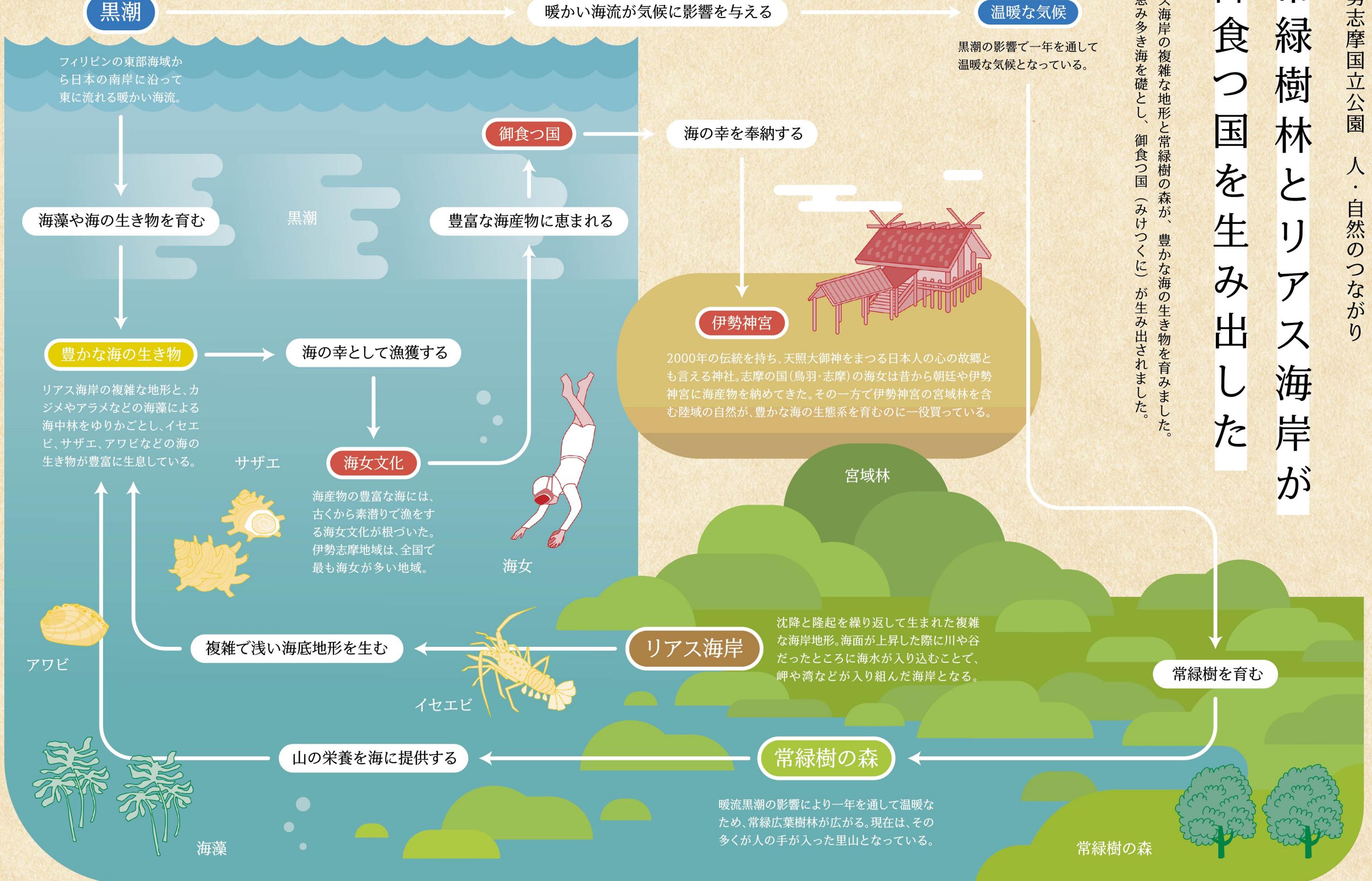
悠久の歴史に育まれた人々の営みと  
自然が織りなす里山里海





常緑樹林とリアス海岸が  
御食つ国を生み出した

リアス海岸の複雑な地形と常緑樹の森が、豊かな海の生き物を育みました。この恵み多き海を礎とし、御食つ国（みけつくに）が生み出されました。



## DAISEN-OKI National Park

指定:昭和11年2月1日 面積:35,353ha(陸域)、34,057.5ha(海域) 鳥取県、島根県、岡山県

## 大山

標高1,729m、中国地方最高峰の大山は、円錐形の火山の上に溶岩ドームが乗った火山。山頂部に続く北壁、南壁の急崖地の景観は荒々しい。

**大** 山隱岐国立公園は、中国地方最高峰の大山から蒜山一帯および三徳山一帯の山岳地帯、三瓶山、島根半島の海岸部、そして隱岐諸島の4つの地域から成り立っている。これらの地域は「国引き神話」を始めとした神話・信仰の舞台となっており、自然と結びついた文化や人々の生業が今に息づいている。

山地部は、火山地形、森林と草原など、多様な要素で構成され、それぞれに個性的な山岳景観を呈している。なかでも見る角度によって表情を変える大山は、標高800～1300m地帯に、西日本最大規模のブナ林が残る。また、大山は歴史上最古の神山として知られ、三徳山は山岳修行の聖地として知られている。

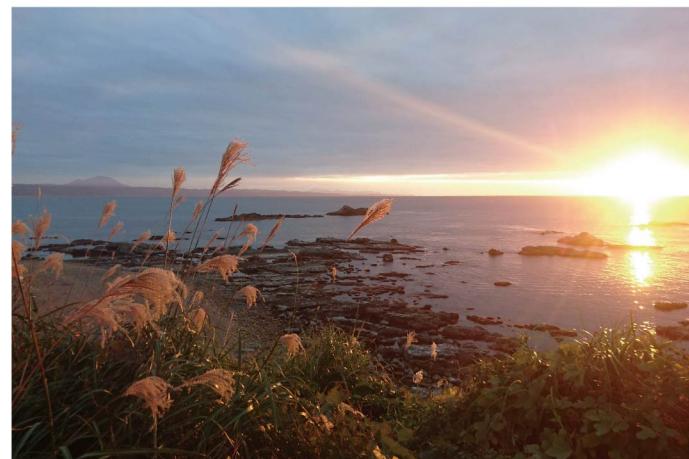
出雲大社が鎮座する島根半島には、「国引き神話」を始めとする日本神話にまつわる名所旧跡が残る。

隱岐諸島は、ダイナミックな大地の活動により形成された島しょ景観や海岸景観が魅力だ。大地の成り立ちや離島独自の生態系、そこで育まってきた人の営みも評価され「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されている。

## 大山 隠岐 国立公園

日本の起源が刻まれ、  
神話や信仰と共に守られた山・島・海





牛突き

800年の歴史を持つ隠岐の牛突き。年3回行われる本場所以外に「観光牛突き」も行われており、こちらは勝負をつけず引き分けにする。

赤壁

知夫里島の西海岸にある、赤、黄、茶色などの色鮮やかな崖。約600万年前の火山の断面で50~200mほどの高さがある。

国賀海岸

隠岐諸島西ノ島北西部に位置し、海の波の作用で発達する断崖絶壁である一方で、牛馬が放牧されている牧草地でもある。

船小屋

隠岐諸島、島後の都万湾に100mにわたり並んで建つ、木造平屋の船小屋。古きよき時代の漁村の風情を今に伝える建築物。

出雲大社本殿

大社造と呼ばれる日本最古の神社建築様式の神殿で国宝。現在の建物は1744年に造営されたもので高さが24mある。

大山のたいまつ行列

毎年6月最初の週末に行われる「大山夏山開き祭」の前夜祭として行われる。およそ2,000人がたいまつを掲げ参道を練り歩く。

三瓶山

男三瓶山、女三瓶山などの6つの峰が火口を囲むように連なり、その中央には室内池が、麓にも2つの湖がある。

## 2億5千万年前からの大地の歴史が残るジオパーク



日本列島の形成を垣間見ることができる地形や地質の価値が、世界レベルで認められ、ユネスコ世界ジオパークにもなった。打ち寄せる波や火山の溶岩が造った断崖、大小の島々が浮かぶ景観など、悠久の歴史が刻んだ大地のアートが海岸線の至る所に見られる。また、この地形と日本海側の潮の満ち引きを利用した「船小屋」が連なる港や鎌倉時代に隠岐に流刑された後鳥羽上皇を慰めるために始まった「牛突き」など、本土にはない独自の文化や歴史、人の営みが島々に息づいている。

**島** 根半島の北40~80kmの日本海に位置する隠岐諸島。

島根半島の北40~80kmの日本海に位置する隠岐諸島。

島根半島の北40~80kmの日本海に位置する隠岐諸島。島根半島は時代ごとにその姿を「七変化」させており、太古からの大地の成り立ちを身近に体験できる。例えば、ユーラシア大陸と地続きだった約2億5千万年前に形成された岩石を集め落にある神社で踏みしめながら島を巡れば、眼前に広がる火山活動によって隆起した時代の岩石・地層の力強さを感じられるだろう。現在の隠岐は、島根半島と地続きになった時代を経て、1万年ほど前に形成された時代の化石をビジュターセンターで見てから島を巡れば、眼前に広がる火山活動によって隆起した時代の岩石・地層の力強さを感じられるだろう。現在の隠岐は、島根半島と地続きになった時代を経て、1万年ほど前に形成されたため、その頃に本土からやってきて、取り残された生き物たち独自の生態系も観察できる。

日本列島の形成を垣間見ことができる地形や地質の価値が、世界レベルで認められ、ユネスコ世界ジオパークにもなった。打ち寄せる波や火山の溶岩が造った断崖、大小の島々が浮かぶ景観など、悠久の歴史が刻んだ大地のアートが海岸線の至る所に見られる。また、この地形と日本海側の潮の満ち引きを利用して作られた「船小屋」が連なる港や鎌倉時代に隠岐に流刑された後鳥羽上皇を慰めるために始まった「牛突き」など、本土にはない独自の文化や歴史、人の営みが島々に息づいている。

## 神話の時代から残る自然と人の営みの歴史



# 大山・隠岐国立公園 人・自然のつながり

日本人の歴史観を育んできた  
神話がつなぐ山、島、海

火山が連なる山岳部、日本海に突き出た島根半島、隠岐諸島から成る大山隠岐国立公園。大地の活動と日本の起源が刻まれた山・海・島で、神話と信仰と文化が育まれました。





06

## ASOKUJU National Park

指定:昭和9年12月4日 面積:72,678ha 熊本県、大分県

## 阿蘇の草原

草原の面積は約22,000ha。そのうち約16,000ha(約72%)が野草地となっており日本一の面積を誇る。

06  
ASOKUJU National Park

九州の真ん中に巨大な窪地がある。東西18km、南北25km。世界最大級の阿蘇カルデラだ。巨大噴火が生み出したこの地形だが、現在の景観に荒々しさはない。むしろ牧歌的な風景を生み出している。

人々は古くからこのカルデラに寄り添つて生きてきた。栄養の少ない火山灰土壤によりできあがった草原地帯を放牧に利用したのだ。また、湧水がいたるところにある。これは全国トップクラスの雨水を貯蔵する森林や草原が長年維持されてきたことと、火山噴出物の一部が地下水を貯める役目を果たしているため。火山地層によつてじつくりと濾過されたミネラル豊富なこれらの水は、飲料としてはもちろん、農業用水などとして、使われてきた。

阿蘇カルデラの内外では、そうした火山からの恵みを享受してきた人々が、代々豊かに暮らしてきた。自然を脅威として捉えるだけではなく、恵みを与えてくれる存在として、上手く付き合っていく。こうした日本の自然観を感じ取れる場所なのだ。

## 阿蘇くじゅう国立公園

火山がもたらした恵み

06  
ASOKUJU National Park

# 日本一の草原を守り続けた千年の営み



阿蘇カルデラ周辺で、もつとも目を引くのが、広大な草原が広がる牧歌的な風景だ。

じつはこの美しい草原が現在あるのは、自然発生的なものではなく、人間の手によるもの。

古くからこの地方の人々が、牛馬の放牧はもちろん、堆肥の確保、茅葺き屋根の材料確保など、その草原を最大限に利用してきた証なのだ。そのおかげで草原に特有の昆虫や植物などが育まれ、貴重で豊かな生態系が成り立っている。

しかし、人の手を入れず放置すれば、あつという間に森林が広がり、草原は失われてしまう。

そうした背景の中で生まれたのが、2月から3月にかけて阿蘇で一斉に行われる野焼きだ。一気に炎が広がるダイナミックな光景を目にしてようど、毎年多くの観光客が訪れる。

この野焼きによって、草原を維持し続け、森林が広がることを防ぐことができるのだ。この地では人の営みも自然の一部。野焼きをしてでも守り続けてきた景観であり、生態系なのだ。

保護ではなく保全。人と自然が上手に寄り添ってきた歴史が、この美しい草原風景を保ち、あか牛などの豊かな産物を育て上げた。阿蘇の人々と草原との付き合いは、千年以上にも及ぶ。



あか牛

広い草原で1年中、草だけを食べて育つ。起伏のある野山をのびのび歩き回ることで健康に育つほか、糞尿の処理の手間が省けるなどメリットが多い。



米塚  
約3千年前に形成された、きれいな円錐形状の火山。高さは約80mで、頂上のくぼみは噴火の名残。植物保護のため立ち入り禁止。

阿蘇神社火振り神事  
3月中旬に行われる五穀豊穣を祈願する神事。農業神が姫神をめとる儀式で、縄の先の茅束に火をつけて振り回すと火の輪が重なり合い幻想的。

阿蘇大観峰  
阿蘇北外輪山の最高峰。阿蘇五岳やくじゅう連山も一望できる。カルデラ底の平野部では、寒暖差が大きい気候に適した稲作が行われている。

白川水源  
熊本市内を流れる一級河川「白川」の水源の一つ。阿蘇カルデラに降り注いだ雨や伏流水が集まり、毎分60tも湧き出している。

## 世界最大級のカルデラがもたらす恵み



世界最大級の阿蘇カルデラがもたらす恵み

約27万年前、九州中央部で火碎流を伴う巨大な噴火が起こった。その後、数万年の間隔をおいて噴火は続いた。火碎流は九州全土を覆い、海さえ越え、吹き上げた火山灰はほぼ日本列島を覆い尽くしたという。そんなダイナミックな誕生とは裏腹に、いまの阿蘇カルデラ内には、約5万人の人々が住んでいる。カルデラ内に安定した集落を形成しているのは、世界でもここだけだ。

阿蘇カルデラ南部や北部の平野部には、多くの水田や農耕地がある。これを使ってきたのが火山由来の水だ。伏流水が湧き出る「南阿蘇湧水群」や「阿蘇神社門前町水基」があり、古くから生活用水として利用してきた。阿蘇の湧き水は、カルデラ一帯に降った雨が、火山地層によってゆっくりと濾過されるため、ミネラル分豊富な天然水となる。地中を通過して湧き出るまでに、約50年かかる。

近くに大きな河川がないのに、これだけ農業が発達したのは、この湧水を利用した灌漑と、草原の野草を堆肥として土にすき込んだり、牛馬の有機物を土に落としたり、長い時間をかけて人が土壤改良を重ねていったからだ。人々の工夫と努力によって、火山は災厄ではなく、恵みへと変わったのだ。

約

27万年前、九州中央部で火碎流を伴う巨大な噴火が起こった。

間だ。その後、数万年の間隔をおいて噴火は続いた。

火碎流は九州全土を覆い尽くしたとい

い、海さえ越え、吹き上げた火山灰は

ほぼ日本列島を覆い尽くしたとい

# 日本最大の草原が広がる 火山活動によるカルデラに

火山性の草原地帯は1000年以上にわたって人々が守り続けた宝。採草や放牧といった人間の営みに活かされ、同時に希少な生き物を守ることにも繋がりました。その美しい景観は、観光客の目も楽しませています。

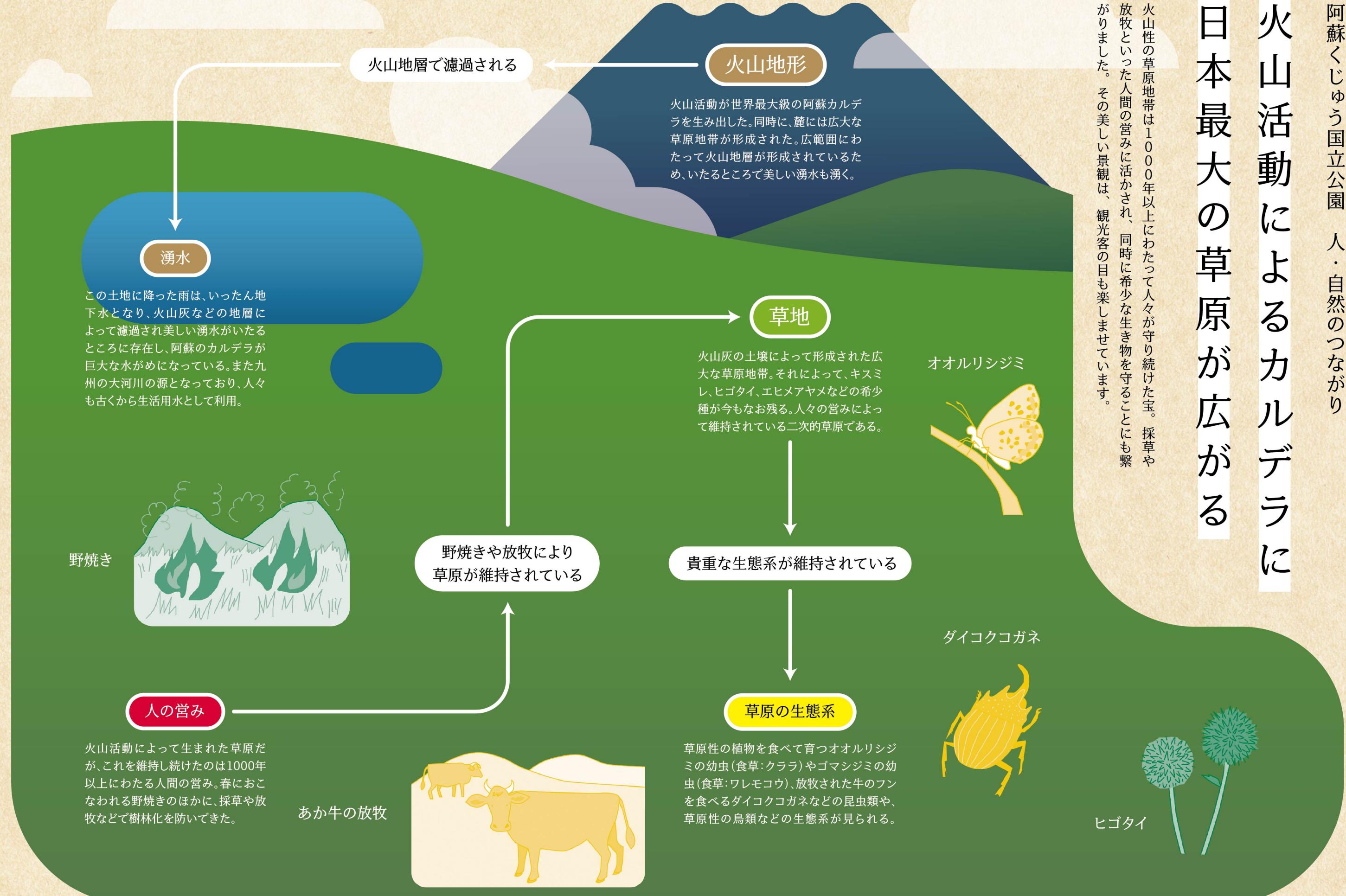




Photo: ks.mountain

## 07

### KIRISHIMA-KINKOWAN National Park

指定:昭和9年3月16日 面積:36,624ha(陸域)、37,855ha(海域) 宮崎県、鹿児島県

#### 噴煙を上げる桜島と錦江湾

公園の中央に位置し、周辺各所から眺望できる火山。現在も噴火や降灰を繰り返しており、地球が持つ激しいエネルギーを体感できる。

07  
KIRISHIMA-KINKOWAN National Park

今も噴火活動を繰り返す火山は、「災い」をもたらすだけでなく、多彩な温泉や食文化を育み、人々の暮らしに多くの恵みをもたらしている。

霧島地域は、大小20以上の火山が連なる山岳地。火山活動に伴って誕生した火口湖、噴気現象、高原、温泉など、変化に富んだ景観が展開し、「火山地形の見本園」とも称される。霧島連山は天孫降臨神話が宿る神秘の山々である。山麓には霧島温泉郷などの温泉地が点在し、同時に良質な水を生み出す。錦江湾地域は、現在も噴煙を上げる桜島を中心に、海と火山が織りなす独特の景観を見せ、人々の生活圏は火山と非常に近接している。南に下り、薩摩半島側の開聞岳は「薩摩富士」とも称される地域のランドマーク。また大隅半島側の本土最南端・佐多岬は亜熱帶性植物が多く生育し、南国情緒満点である。

## 霧島錦江湾国立公園

活きた火山に近接する大地と人のセッション



07  
KIRISHIMA-KINKOWAN National Park

# カルデラ群が織りなす 山と海の多様な景観



## 霧

島錦江湾国立公園には、現在も噴火を続ける火山や、過去の大規模な噴火によって形成された、巨大なカルデラ群が見られる。これらは九州の東側の海底に沈み込むプレートの活動に起因して形成されたもので、加久藤カルデラ、小林カルデラ、姶良カルデラ、阿多カルデラなどが、列をして南九州地方を南北に並んでいる。

例えば、錦江湾地域には姶良カルデラの南部に桜島があり、さらにその南側に阿多カルデラが存在している。姶良カルデラは現在は内湾となっているが、巨大な火山が噴火して落ち込んだ巨大なカルデラで、我が国

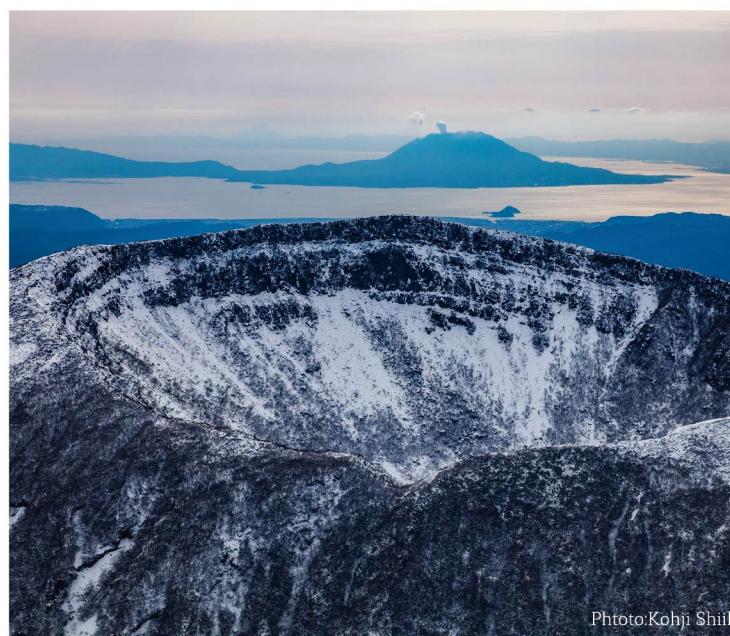


Photo: Kohji Shiiki



屈指の海上カルデラ景観を有する。また、桜島はかつて、名称が示すとおり「島」であった。しかし、大正3（1914）年に起きた大規模な噴火の際、流出した溶岩によって大隅半島と陸続きになった。幕末・明治の時代を生きた西郷隆盛は、現代の私たちが見るのは異なる、桜島の風景を眺めていたことになる。

大地の姿を幾度となく変化させてきた霧島錦江湾国立公園の火山群。悠久の大地の時

間に想いを馳せながら、ダイナミックな地球

の活動を目で見て肌で体感できるのも、この地の魅力だ。

## 高千穂峰

宮崎県と鹿児島県の県境に位置する霧島連山の第二峰。標高1,574m。写真は西側にある活火山御鉢の登山道。奥に見えるのは新燃岳と韓国岳。

## 韓国岳の火口

標高1,700mの霧島連山最高峰。火口は直径900m、深さ300m。天気が良いと錦江湾や桜島、開聞岳などを見渡せる。

## 佐多岬

本土最南端に位置する。好天時には屋久島や種子島を望むこともできる。また、ビロウやソテツなどの亜熱帯植物が多く生育している。



鹿児島市街地と桜島

周辺の人々は火山灰の影響を受けながら生活している。火山灰予報や降った灰を捨てるための克灰袋など、独特的な灰対策がある。

砂むし風呂

薩摩半島の南端に位置する指宿温泉では、砂の中に横たわって温泉の蒸気を浴びる「砂むし風呂」が有名。300年以上前の江戸時代から続いている湯治方法。



Photo: Alfie Goodrich

## 世界でも稀有な火山と人の暮らしの『近さ』



ここでは、多くの住民が火山からの恵みを享受しながら、農業や漁業、観光産業などで生計を立てている。降灰は農産物の大敵だが、時には特産品も誕生させる。火山灰土壌を好む「桜島大根」はその代表格だ。また、温暖で湿潤な気候は、発酵食品の生産にも適しており、錦江湾に面した霧島市福山には、黒酢を発酵・熟成させる壺がズラリと並ぶ「壺畠」の風景が広がる。また、山々に濾過された水が南九州の焼酎文化を支え、良質な茶葉を生み出している。

火山の恵みの最たるものと言えば、各地で湧出する温泉だ。多彩な泉質のいで湯が湧く霧島温泉郷。地熱を利用した「砂むし風呂」を体験できる指宿温泉のほか、幕末の英傑・西郷隆盛や坂本龍馬が入浴を楽しんだ温泉もある。また、個室の温泉施設を少人数で楽しめる「家族風呂」という温泉文化も霧島が発祥地だ。さらに大地からわき出る蒸気熱を利用した「天然蒸気かまど（スメ）」が各家庭に1個ずつ備わっている集落もある。

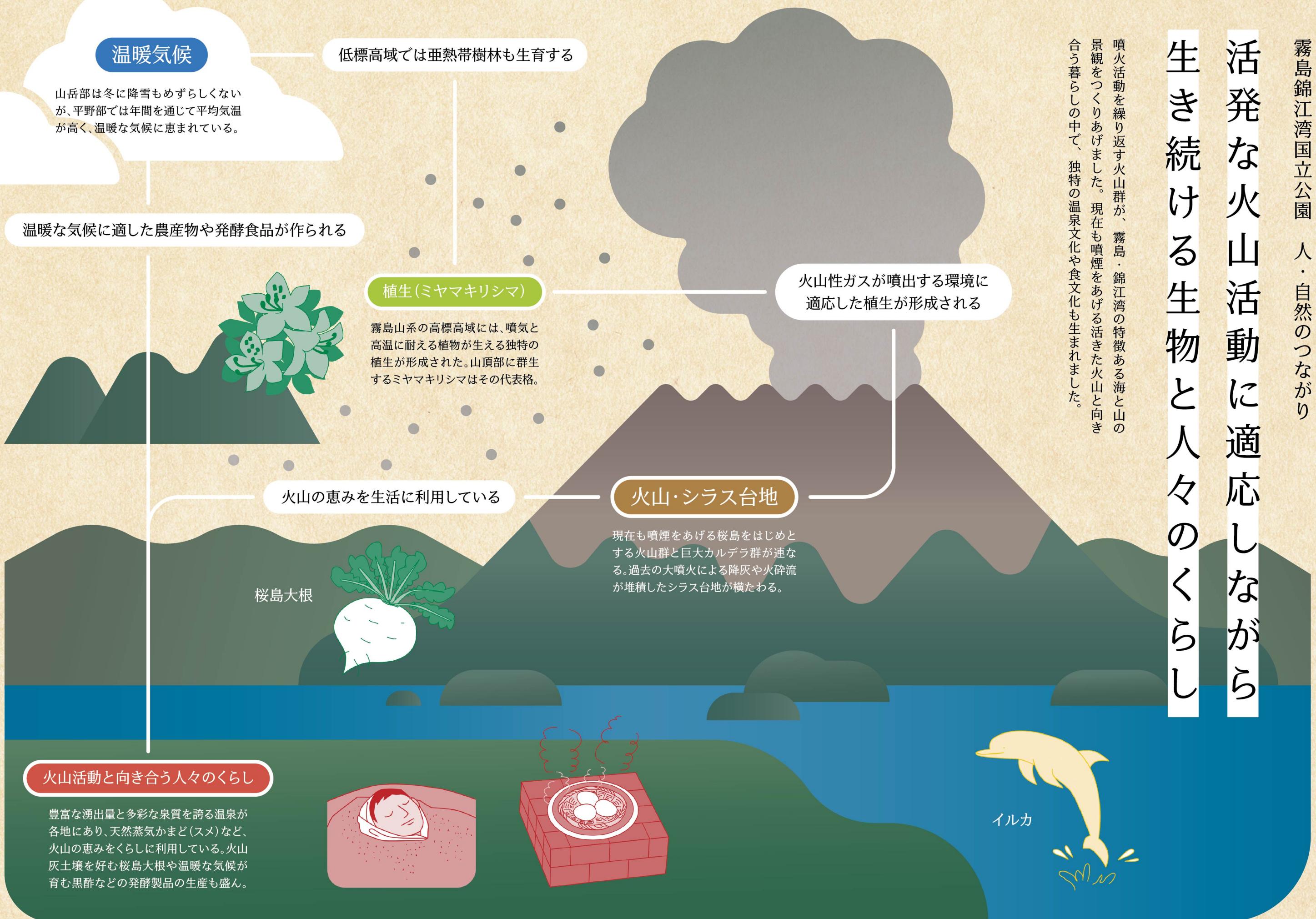
火山と近接した暮らしは、霧島錦江湾国立公園独特の食文化や温泉文化を形成する、大きな要因の一つになっている。

## 噴

煙を上げながら錦江湾にそそり立つ鹿児島のシンボル、桜島。人口約60万人の県都（鹿児島市）の中心街からわずか4kmという目と鼻の先に、噴火を繰り返す活火山が存在し、その桜島には今なお5千人近い人々が暮らす。日々、降灰予報などを気にしながら暮らす環境は、世界的に見ても非常に珍しい。

# 生き続ける生物と人々のくらし

噴火活動を繰り返す火山群が、霧島・錦江湾の特徴ある海と山の景観をつくりあげました。現在も噴煙をあげる活きた火山と向き合う暮らしの中で、独特的な温泉文化や食文化も生まれました。



## KERAMASHOTO National Park

指定:平成26年3月5日 面積:3,520ha(陸域)、90,475ha(海域) 沖縄県

## 座間味島の高月山展望台からの眺望

目の前に広がるケラマブルーの海。日本有数のサンゴ礁域に多様な魚類が生息するほか、ザトウクジラも回遊してくる。

**沖** 縄県那覇市の西方約30～40kmに位置し、大小30余りの島々と数多くの岩礁から成り立つ慶良間諸島。最大の魅力は、「ケラマブルー」と称される美しい海だ。クリアな水色から深い群青色へと、青色の変化を見せながら太陽の光できらめき、訪れる人を魅了せざにはおかない。

ケラマブルーの海は、生命を育むゆりかごでもある。豊かなサンゴ礁にはカラフルな魚たちとともに、ウミガメが悠々と泳ぎ、周辺の海には冬から春にかけて、ザトウクジラが繁殖のためやってくる。

慶良間での楽しみはマリンアクティビティだけではない。島の中に足を向ければ、連続した多様な景観を味わうことができ、歴史に育まれた民俗文化が息づく、ゆつたりと流れる島時間に身をゆだねることができる。非日常的な空間で本来の自分と向き合う。そんなひとときを過ごせるのも、ケラマブルーの世界ならではの楽しみだ。

KERAMASHOTO

## 慶良間諸島国立公園

「ケラマブルーの世界」でのリトリート





#### アオウミガメ

慶良間諸島の海で出会える確率が一番高いウミガメ。浅瀬に生えている海草や藻を食べるためにはぐくとがチャンス。

#### サンゴ礁

公園内で確認されたサンゴは248種。日本で確認されるサンゴ礁を造るタイプのサンゴの約62%が、ひとつの公園の中に生息している。

#### 透明度の高い海

慶良間諸島の海は透明度が高く魚の種類も豊富。シュノーケリングでスズメダイやチョウチョウウオなど、カラフルな魚に出会える。

#### ホエールウォッチング

雄クジラたちのダイナミックな行動が見られるほか、母子クジラに出会えることもある。慶良間では母子を驚かせないように遠くから見守る。

#### 古座間味ビーチ

座間味島にあるビーチで、1km近くある白い砂浜が緩い曲線を描く。比較的水深があるため、波打ち際から近い場所でサンゴ礁に群れる魚を観察できる。

#### 阿波連ビーチ

渡嘉敷島の南西部に位置するビーチ。トイレやシャワー室が完備され、パラソルやシュノーケルセットなどのレンタルも充実している。

#### 高良家

慶留間島にある船頭主家と呼ばれる旧家。沖縄民家の原型を留める建物として国の重要文化財に指定されている。

#### ニシバマテラス

阿嘉島ニシバマビーチにある3層構造の展望デッキ。1階は琉球石灰岩張り、2階は木のカウンターやテーブル席が置かれ、3階が展望デッキになっている。

## 生き物にあふれるサンゴ礁の海



## リトリートへ誘う「島の時間」



「リトリート (retreat)」とはもともと、「逃避する、避難する」といった意味。そこから派生して、忙な日常生活からいたん離れる時間を持ち、心身をリセットして、ポジティブに日常生活を再スタートする、という意味でも使われる。慶良間の島々には、訪れる者をリトリートへと誘う、ドラマチックな景観美や癒しの時間が存在している。

渡嘉敷島、座間味島、阿嘉島、慶留間島、それぞれの島には、慶良間諸島のダイナミックな多島海景観を一望できる魅力的な展望台がある。高台から眺めるサンセットは、思わず時間を忘れるほどの美しさ。また、阿波連ビーチ（渡嘉敷島）や古座間味ビーチ（座間味島）などで、のんびりと砂浜に座って、ケラマブルーの海を眺めたり、海と空が刻々と表情を変える夕暮れのひとときを過ごすだけでも心身がリフレッシュする。

沖縄には「ゆんたく」と言って、家族や友人が木陰などに集い、おしゃべりを楽しみながら夕涼みする習慣がある。暑い日の夕方に集落内を散策し、ゆんたくに加わってゆつたりとした島時間を感じるのもいいし、夜はビーチに寝転がって、波音を聴きながら満天の星に心ときめかすのもいい。沖縄本島（那覇市泊港）からのアクセスも良く、手軽にアプローチできる別世界だ。

特筆すべきは、マリンアクティビティの事業者が、生き物の保全を第一に考えた姿勢で仕事に取り組んでいる点だ。例えば、事業者が地元住民と協働し、サンゴの保全活動やモニタリング調査、海岸清掃などをボランティアで行なうなど、海の環境保全に努めている。多彩な生き物の宝庫であるケラマブルーの海は、地域をあげた保全活動によつて守られているのだ。

ラムサール条約の登録湿地になっている慶良間諸島の海。透明度の高さは世界屈指で、魚やサンゴを始めとする、海の生き物の種類は実際に多彩だ。

ダイビングやシュノーケリングで遭

遇率が高い生き物に、ウミガメの仲間がいる。慶良間の海には、アオウミガメ、タイマイが生息しており、シーカヤックやSUPに乗つて、海中を泳ぐウミガメの姿を見ることもできる。

また、毎年12月下旬から4月上旬にかけて、繁殖のために慶良間の海域にやってくるザトウクジラにも高い確率で出会うことができる。豪快なザトウクジラの行動を船から観察するホーリュウオッティングは、冬期のアクティビティの目玉。運がよければ、ザトウクジラの子育ての様子を観察できることもある。

「リトリート (retreat)」とはもともと、「逃避する、避難する」といった意味。そこから派生して、忙な日常生活からいたん離れる時間を持ち、心身をリセットして、ポジティブに日常生活を再スタートする、といふ意味でも使われる。慶良間の島々には、訪れる者をリトリートへと誘う、ドラマチックな景観美や癒しの時間が存在している。

渡嘉敷島、座間味島、阿嘉島、慶留間島、それぞれの島には、慶良間諸島のダイナミックな多島海景観を一望できる魅力的な展望台がある。高台から眺めるサンセットは、思わず時間を忘れるほどの美しさ。また、阿波連ビーチ（渡嘉敷島）や古座間味ビーチ（座間味島）などで、のんびりと砂浜に座って、ケラマブルーの海を眺めたり、海と空が刻々と表情を変える夕暮れのひとときを過ごすだけでも心身がリフレッシュする。

沖縄には「ゆんたく」と言って、家族や友人が木陰などに集い、おしゃべりを楽しみながら夕涼みする習慣がある。暑い日の夕方に集落内を散策し、ゆんたくに加わってゆつたりとした島時間を感じるのもいいし、夜はビーチに寝転がって、波音を聴きながら満天の星に心ときめかすのもいい。沖縄本島（那覇市泊港）からのアクセスも良く、手軽にアプローチできる別世界だ。

特筆すべきは、マリンアクティビティの事業者が、生き物の保全を第一に考えた姿勢で仕事に取り組んでいる点だ。例えば、事業者が地元住民と協働し、サンゴの保全活動やモニタリング調査、海岸清掃などをボランティアで行なうなど、海の環境保全に努めている。多彩な生き物の宝庫であるケラマブルーの海は、地域をあげた保全活動によつて守られているのだ。

# 豊かな海と共に生きる人々 亜熱帯海洋性気候や沈降海岸地形が育む

